

佳作

やたいの中で太こ

埼玉県 秩父市立花の木小学校二年 阿佐美 拓杜

ぼくは、小さいころから、おまつりと太こが大スキです。

いえでまい日れんしゅうしています。

おまつりの一しゅう間前からはじまる『太こならし』にまいばん行って、本町太これんの人たちにならざって、大太こも小太こもたたきました。

がんばってれんしゅうしたので、またすこし上手になりました。

お母さんが、

「大きい音が出るようになったね。」

と、言ってくれたので、うれしかったです。

そして、たのしみになっている川せまつりがはじまりました。

今年は、お姉ちゃんが六年生で、ひょう子木じゅばんぎをやりました。

みんなを盛り上げて、かっこよかったです。

ぼくも、きょ年、一年生になって、ひょう子木でさんかするようになったけど、今年はとくべつなことがありました。

やたいの中で、太こをたたかせてもらえることになったのです。

それを聞いてから、うれしくて、そのことばかり考えていました。

中学生になったお兄ちゃんが、太これんに入って、やたいの中で太こをたたくようになったのがうらやましくてかたなかつたです。

みんなから、

「たくとも中学生になったらな。」

と、言われるけど、早くやたいにのりたいたいと思っていました。

あつかったけど、

「ワッショイ。」

と、声を出して、ひょう子木もがんばりました。

そして、やたいが本町の会しよについて、まちにまった時がきました。

本町の小学生の男子が太こべやにのりこみ太こ長のかけ声で、ぼくたちの太こがスタートです。

なんと、ぼくの大太こからはじまりました。

太これんみたいに

「さあーさあーさあー。」

と、声をかけてもらい、カいっばいたたきました。

交たいしてからは、ぼくが、

「さあーさあー。」

と、声をかけ、みんなを盛り上げました。

お父さん、お兄ちゃんが、

「がんばったな。上手にできた。」

と、ほめてくれて、うれしかったです。

もっともっとれんしゅうして、もっともっと上手になります。